

トーキングロード  
嘶家人生 山あり、谷あり

〔第60回〕

## 平林

✦ 文 林家希林

text by Kirin Hayashiya ✦

先日、東京大学に初めて足を踏み入れました。東京大学には、受験しようなんて思える頭もないためか、家から近いのですが前を通るだけで中にも入ったことがあります。キャンパスに入ると12月だというのに校章にもなっている銀杏並木がお出迎え。赤門や安田講堂などを見ながら、気持ちちは東大生。江川達也さんの『東京大学物語』の世界に入ったような感覚と学内を歩いているだけで頭が良くなっているような錯覚をしながら、東京大学というブランドに完全にマウントを取られておりました。

今回、なぜ東大に行ったかと申しますと、文学部の授業で特別ゲストとして落語披露をさせていただくことになったためです。まず教授が話し出すと、たちまち学生達は一齐に話を聴く体勢になり、集中力の塊と化し緊張した雰囲気。いざ落語の時間になってその緊張感は途切れず、落語がとでもウケるような感じではなかったため、僕が「笑ってくださいね」と言うとその緊張は一気に解け、急に寄席にいるかのような暖かさに。この切り替えの早さこそ能力の高さなのかと感じてしまいました。

授業をさせていただきました。また、ある学生さんとは一緒に新作落語を作ろうと話が進み出しております。これを皆様の前でやらせていただくのが楽しみです。

今でこそ、高校卒業後の進学率は80%を超えますが（短大、専門学校を含む）、落語の舞台になる時代は進学どころか、文字の読み書きもできない人が珍しくありませんでした。

とあるお店の小僧さん、平河町の「平林さん」に手紙を届けるようにお使いを頼まれます。しかしこの小僧さん、物覚えが悪くどこの誰に届けるのかすぐに忘れてしまいます。「表に宛名が書いてある」と言われてもこの小僧さん字が読めません。それじゃあ「平林さん、平林さん：」と口に出しながら行けばいいと言われ、言われた通り、「ひらばやしさん、ひらばやしさん：」と言いつつながら出かけていきますが、途中大きな水たまりを越えるのに「どっこいしょ」と言ったところ、「どっこいしょさん、どっこいしょさん：」と入れ替わってしまった。これは違うと気づいても元の読み方を思い出せない。仕方ないので道行く人に「平林」の読み方を尋ねるも…。

シンプルながらも笑いどころの多い話「平林」。是非知り合いの平林さんと聴いてみてください！

## 真打昇進襲名披露興行

## 浅草演芸ホール

10月中席(昼の部)(11時40分~)トリ11日(水)、17日(火)、20日(金)

## 池袋演芸場

10月下席(昼の部)(13時~)トリ22日(日)、24日(火)

## 国立演芸場主催

2月(昼の部)(13時~) 9日(金)トリ10日(土)

ご予約は、「チケットぴあ」まで。 <https://t.pia.jp/>

## profile

1989年東京浅草生まれ。父は元大関・清國勝雄。

2009年林家木久扇に入門

2013年二ツ目昇進。

2023年9月下席より真打昇進。林家木りんから「希林」に改名。身長192cmと、落語協会一の高身長!

趣味は相撲、野球、読書、競馬、マラソン、空港見学。

空港についてエッセイ、コラムを書くほどの空港マニア。

初の著書『師匠!』発売中

